

日本バイオインフォマティクス学会 第18回評議員会 議事録

日時：平成19年3月26日(月)15時～17時

場所：八重洲富士屋ホテル3階けやき

東京都中央区八重洲2-9-1

出席者：中井(会長)、秋山(副会長)、松野、榊原、宮野(幹事・評議員)、藤、田中、清水、辻本、長野、浅井、金井、小池、後藤、深海、坊農、水口、水島、(評議員)、渋谷(幹事・議事録)、鈴木(事務局)

1. 新任・退任の評議員の挨拶

新任・退任の評議員の紹介、挨拶が行われた。

2. 報告事項

2.1. 会員の推移について

中井会長より、会員の推移、賛助会員の推移について報告があった。

会員数は微増している。

研究会・地域部会等において会員・賛助会員のメリットを増やすことで、今後の会員数を増やしていくことを期待している。

2.2. 事業計画および収支予算について

中井会長より、総会で行っていなかった事業計画および収支予算の承認手続きの取扱いについて報告された。今年度に関する暫定的な取扱いは、評議員会に認められた案を全会員にメールで示し、期間内に異論がなかったため、その通り処置することとなった。次年度以降の承認手続きについては、将来検討委員会を立ち上げて議論している。

2.3. 研究会活動について

中井会長より、今年度の研究会の活動に関して報告があった。

2.4. 地域部会活動について

中井会長より、今年度の地域部会活動に関して報告があった。

現在中部、北陸の部会が存在していないが、今後検討をしていく。

2.5. ホームページについて

松野委員より、学会のホームページのバナー広告に関する報告があった。

これまで広告掲載代金は月額3万円でスタートしたが、広告主を集めるためキャンペーンで1万円で行っていた。今後は、常時月額1万円と改定することになった。また、コンテンツの作り変えを行っており、ほぼ完成している。

新コンテンツは4月中旬より公開予定。また、英語版のページに関しては、今後要検討である。

2.6 19年度年会について

浅井委員より、プログラム委員、組織委員の編成について中間報告があった。現在、数名の先生方から

内諾を頂いている状態である。

委員はメンバー選定後、メールにて審議を行うこととなった。

会場については、日本科学未来館を用いることを考えている。

また、バイオ情報学研究会、MPS 研究会、CBRC の企画等と連続開催を行い、ビジビリティをあげていく予定である。

2.7 今年度会計中間報告

中井会長より今年度の会計の中間報告があった。

これに関して、松野委員より 3 月使用予定のウェブ開発費に関して報告があった。

2.8. GIW のプロシーディングについて

宮野委員より、GIW が次年度から海外で開催されるが、出版物は今後とも学会の出版物として扱って行くことが報告された。

3. 審議事項

3.1. JSBi 総会について

中井会長より、JSBi の総会をできるだけ早い時期に行うため、5 月 29 日に合同研究会を行い、それと同時に総会を行うことになったことが報告され、それに関する議論が行われた。

- 他学会では年会、総会を同時開催するところ、別々に開催しているところなどいろいろ存在する。(秋山)
- 年会、総会を別々に行うことで、学会会則は変更せずにする。(中井)
- 年会、総会を両方とも 5 月に行う、という考え方もありえる。(中井)
- 運営側としては年会、総会を同時にした方がやりやすいが、少なくとも 19 年度は間に合わない。(宮野)

3.2. バイオインフォマティクス技術者認定試験について

秋山委員よりバイオインフォマティクス技術者認定試験(BICERT)について報告があった。BICERT はこれまで 3 年間行われているが、徐々に受験者が減少していることから、運営をおこなっていたバイオ産業情報化コンソーシアム(JBIC)が撤退することを表明がなされ、現地点ですでに終了案内が Web では出ている。ただ、途中でやめるのは残念であるため、類似の試験を日本バイオインフォマティクス学会で行う場合の収支の概算見積もりが示された。

また、続ける場合には、CBI 学会からも協力の申し出があることが報告された。これに関して活発な意見が交わされた。

- 受験料を大幅に少なくするのは、以前の受験者の心情も考慮して行なうべきである(深海)
- 受験者の大部分が学生であることを考えると、受験料の引き下げは必要である。(宮野・秋山)
- 認定証の印刷費等を考える必要があるのではないかと(藤・松野)
- 問題集販売はどうか(浅井)
- 紙の問題集は通常赤字になってしまう。Web ページで公開してはどうか(秋山)
- 問題は易しくし、更に全国展開を考えたところでやめることになったのは残念だが、学会財産として続けてほしい(水島)
- 他の学会との協業はぜひ進めてはいいのではないかと(金井)
- あまりに多くの学会と共催すると、出題分野が定まらない可能性がある(秋山)

- 過去3年間の積み重ねがあるため、今までの労力をそのまま繰り返すことにはならずにはならずすむはずである。また、たとえ小規模でも継続できるならばした方がよいのではないか。(宮野)
 - 資格のメリットをより明確にした方がよい。(水口)
 - 企業で採用する人に必要な知識を出題すればそういった資格としての価値も出るのではないか(深海)
 - 企業で採用する側としては、心が動くものがある。(金井)
 - 認定ではなく点数を出すのではどうか。(後藤)
 - 点数を均一化するのは大変な手間となる可能性がある。(秋山)
- これらの議論の結果、日本バイオインフォマティクス学会としてこの試験を持続することが承認された。

3.3. 相談窓口について

倫理に反する行為等に関する相談があった際の相談窓口として、専用のメールアドレス等を設けることについて議論がなされ、今後更に議論を深めて行くことになった。

- 窓口を作る場合には、どのような人がそれを読むか、について公開するなどの必要性があるのではないか。(秋山)
- 現在のところ、学会窓口は jimu@jsbi.org のみとなっている。(宮野)
- 基本的に秘密でなくてはならないので jimu@jsbi.org では難しい。秘密性の扱いを整理してからではないと、リスクがあるのではないか。苦情窓口等であればまだ作りやすいかもしれない。(松野)
- 倫理規定に関する窓口、というのであれば作りやすいのではないかと。(秋山)
- 常に受け付けるのは難しいのではないかと。関係ないものも来るようになるかもしれない。(藤)
- 倫理違反が実際あった場合にどう対応すればよいか、何ができるかの検討をより深める必要があるのではないかと。(浅井)

3.4. 男女共同参画学協会連絡会について

男女共同参画学協会連絡会に参加するかどうかについての有田委員による調査結果が報告された。積極的に参加するのは担当委員の負荷が高いのでは、という意見が出た。これについては、今後更に検討していくことになった。

3.5. 19年度夏の学校について

来年度の夏の学校に関して、渋谷委員より群馬県桐生国際ホテルにおいて8月6日～8日に行われる予定で計画中であることが報告され、承認された。

4. 会長選挙について

来年度の会長選挙が行われ、中井謙太現会長が再任された。

以上